

FENWAL

2018 | 12月期 第2四半期 決算説明会資料

(2018年1月1日～2018年6月30日)

2018年8月24日

日本フェンオール株式会社

証券コード (6870)

Contents

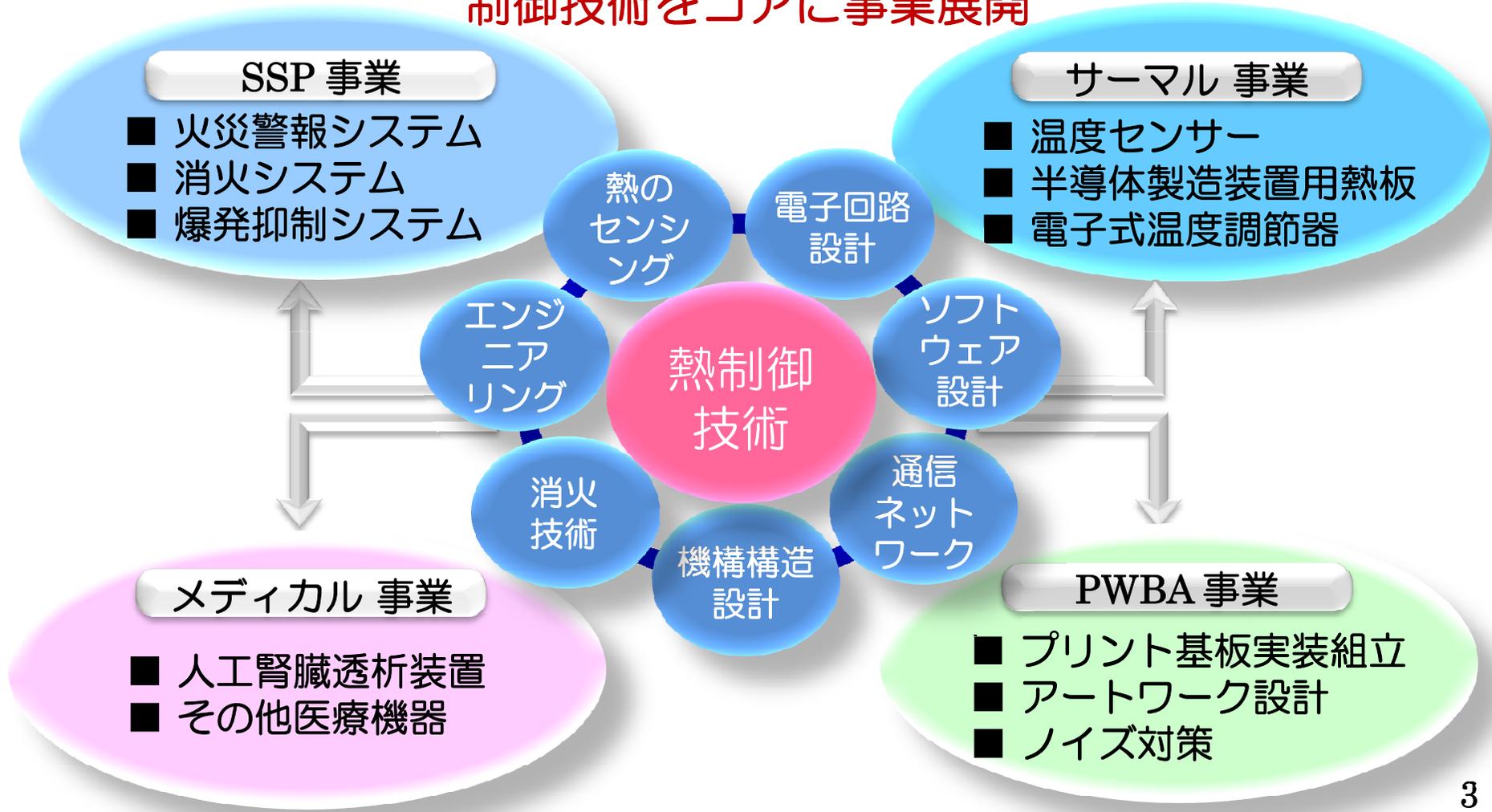
	頁
1. 事業概要	2
2. 2018年 12月期 第2四半期 決算概要	5
セグメント別実績	9
投資・財務概況・経営指標	14
3. 2018年度 通期連結業績見通し	20
2018年度 配当について	23
4. 中期 3ヶ年経営計画 進捗	25
中期 経営目標・配当政策・投資計画	39

1. 事業概要



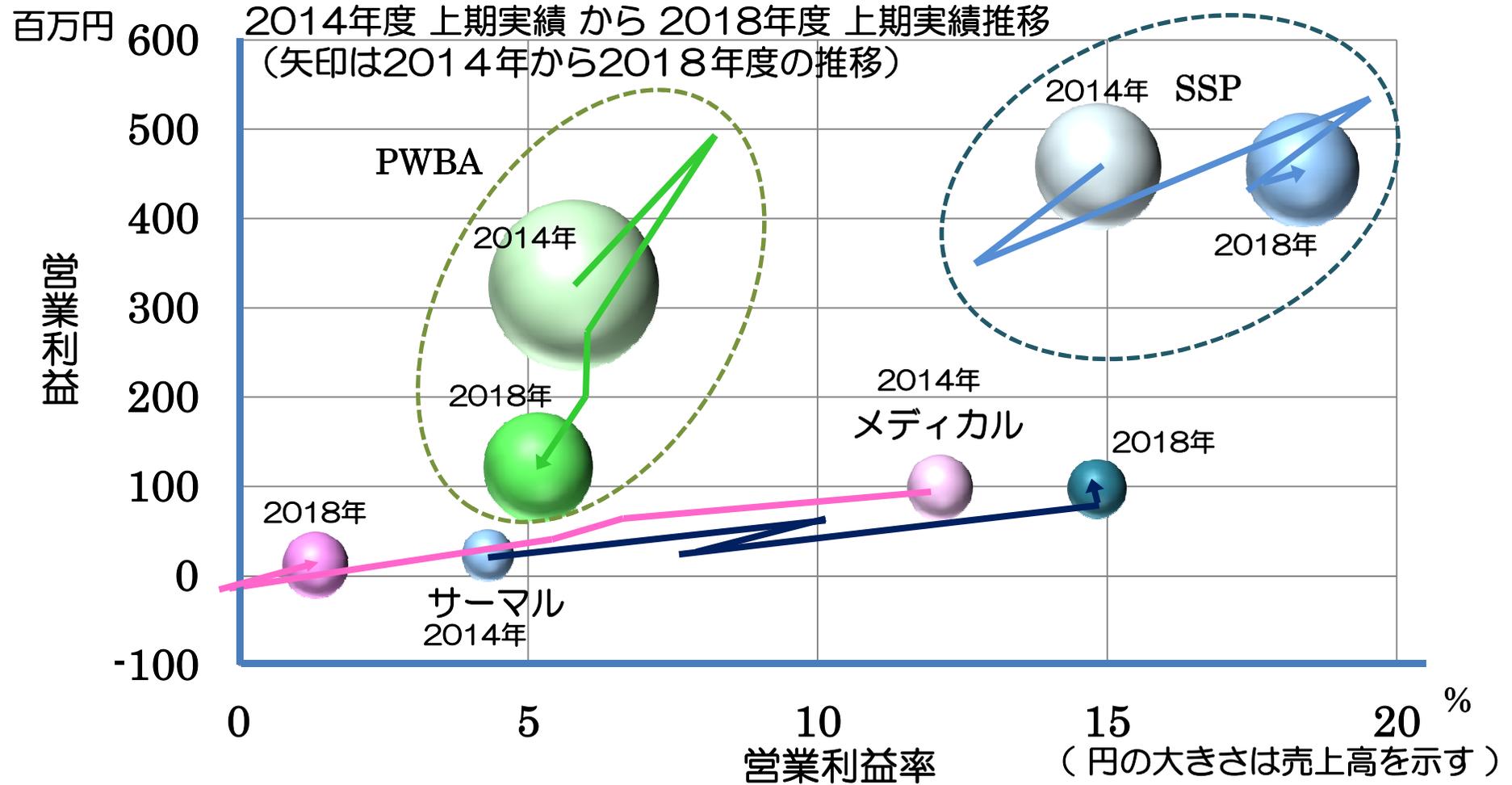
事業構成

制御技術をコアに事業展開





当社事業のポジショニング



2. 2018年12月期 第2四半期 決算概要



2018年度 第2四半期の業績サマリー

前期比 売上高 Δ 12.8% 営業利益 Δ 6.5% 減収減益

(単位：百万円)

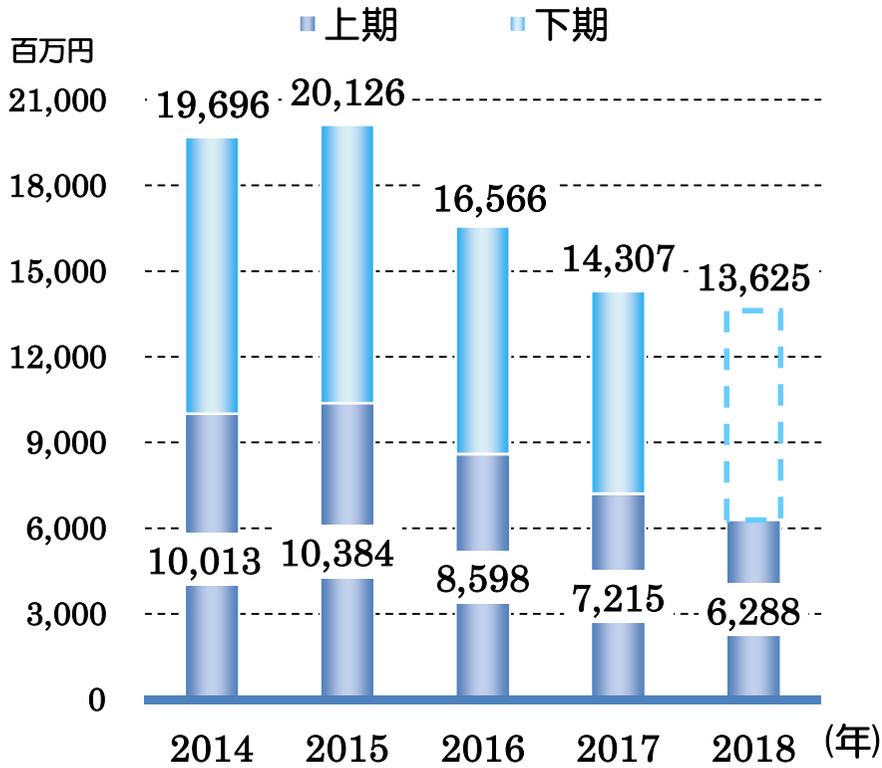
業績項目	当期実績		当期予算		前年実績	
	実績		予算	差異率	実績	差異率
■ 受注	6,101		6,206	Δ 1.7%	7,849	Δ 22.3%
■ 売上	6,288		6,691	Δ 6.0%	7,215	Δ 12.8%
■ 売上総利益	1,620		1,736	Δ 6.7%	1,697	Δ 4.5%
■ 販管費	934		1,002	Δ 6.7%	964	Δ 3.0%
■ 営業利益	685		734	Δ 6.7%	733	Δ 6.5%
■ 営業外損益	31		32	Δ 3.2%	53	Δ 40.9%
■ 経常利益	717		766	Δ 6.5%	786	Δ 8.8%
■ 四半期純利益	492		531	Δ 7.2%	561	Δ 12.2%
■ 1株当り純利益(円)	83.63		90.12	Δ 7.2%	95.21	Δ 12.2%
■ 平均レート(円)	109.14		105.00	3.9%	112.76	Δ 3.2%



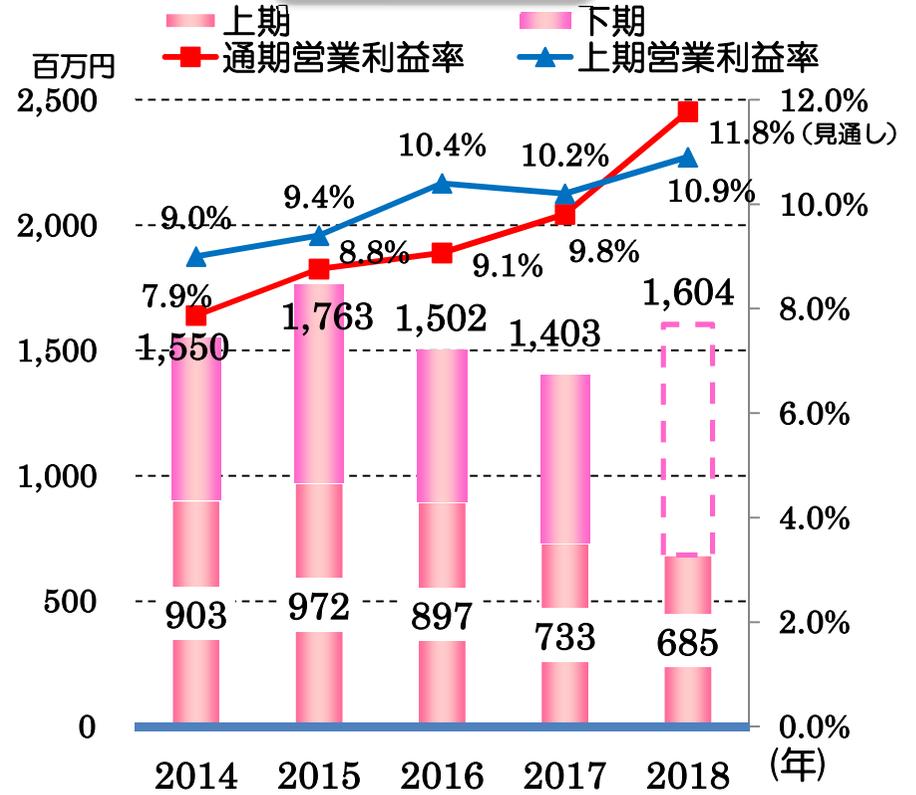
業績推移

売上高減少も高付加価値化により利益率は2014年度比+1.9% 引

売上高



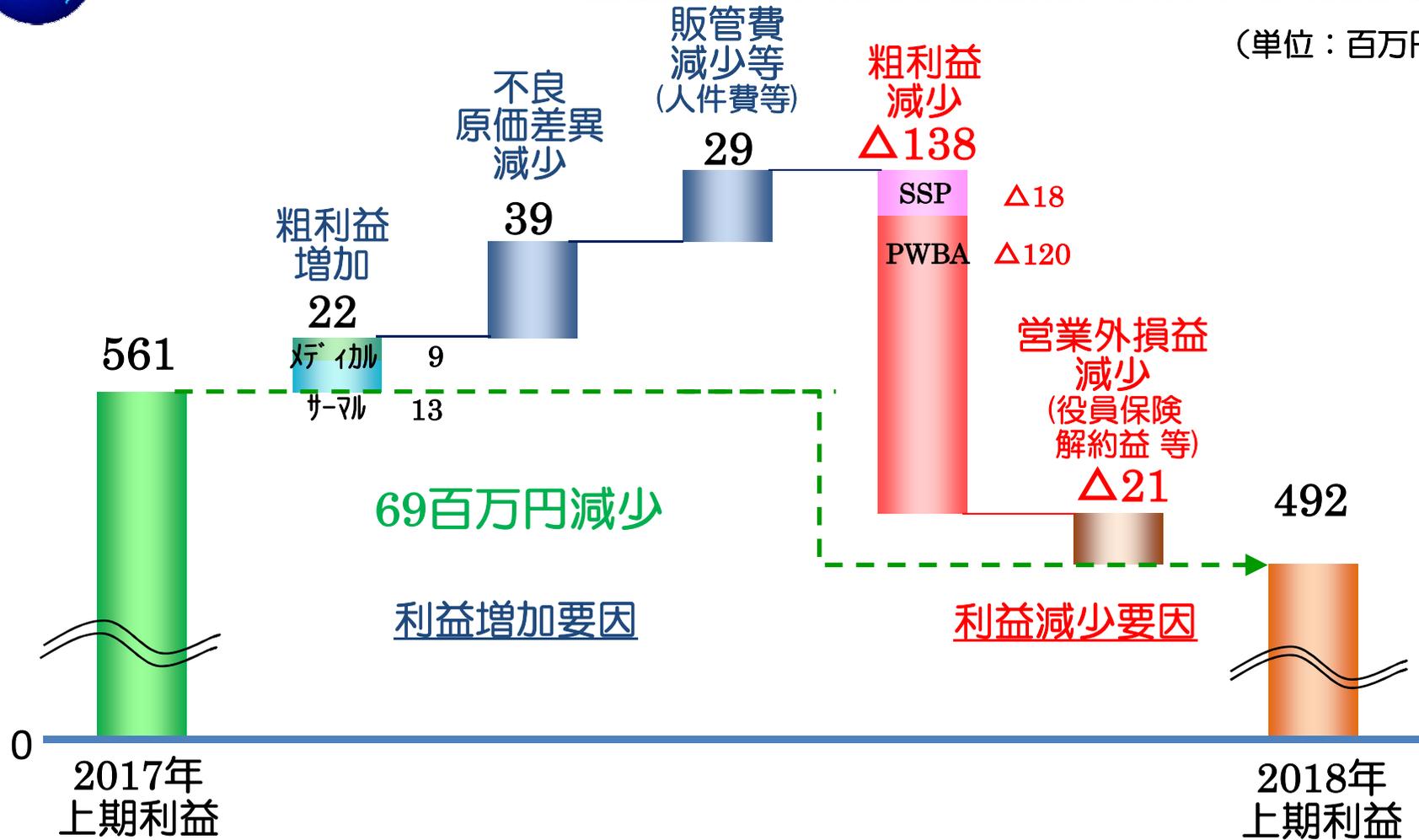
営業利益





前期比 当期純利益増減要因

(単位：百万円)



セグメント別実績



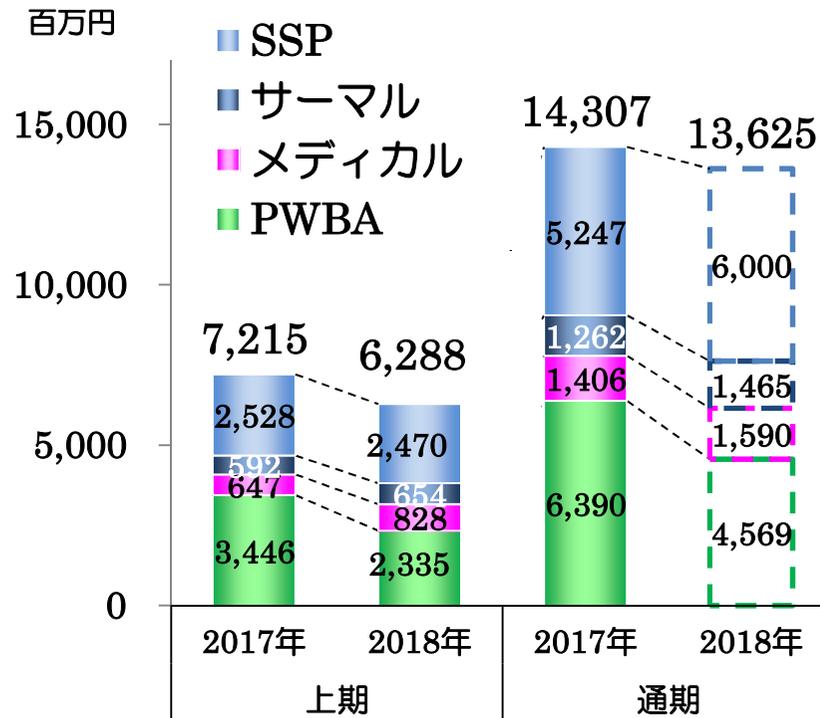
セグメント別業績概要

SSP	減収 増益	売上高 2.3%減少、営業利益 2.4%増加 <ul style="list-style-type: none">■ 基幹産業向け防災設備の竣工延期■ 企業の安全対策による産業用検知器増加にともなう増益
サーマル	増収 増益	売上高 10.4%増加、営業利益 10.4%増加 <ul style="list-style-type: none">■ 半導体製造装置向け熱板・センサーの出荷増加
メディカル	増収 増益	売上高 27.9%増加、営業利益黒字転換 <ul style="list-style-type: none">■ 新興国向け人工腎臓透析装置の需要が増加■ 新規医療機器に関する不採算案件解消
PWBA	減収 減益	売上高 32.2%減少、営業利益 42.4%減少 計画は達成 <ul style="list-style-type: none">■ 海外売上高前期比 37.2%減■ セキュリティー、医療機器系の出荷は増加

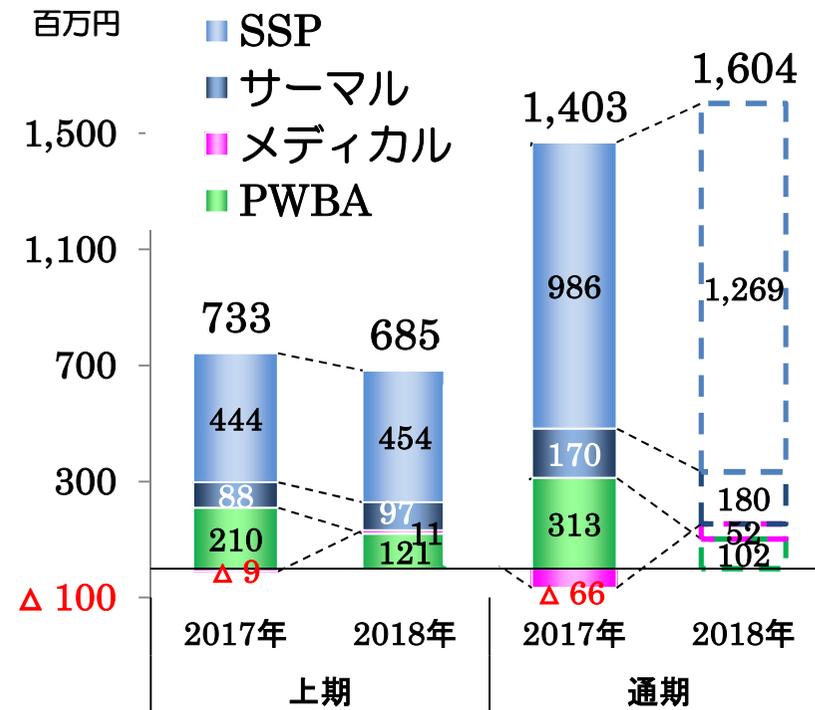


セグメント別増減明細

売上高の増減



営業利益の増減





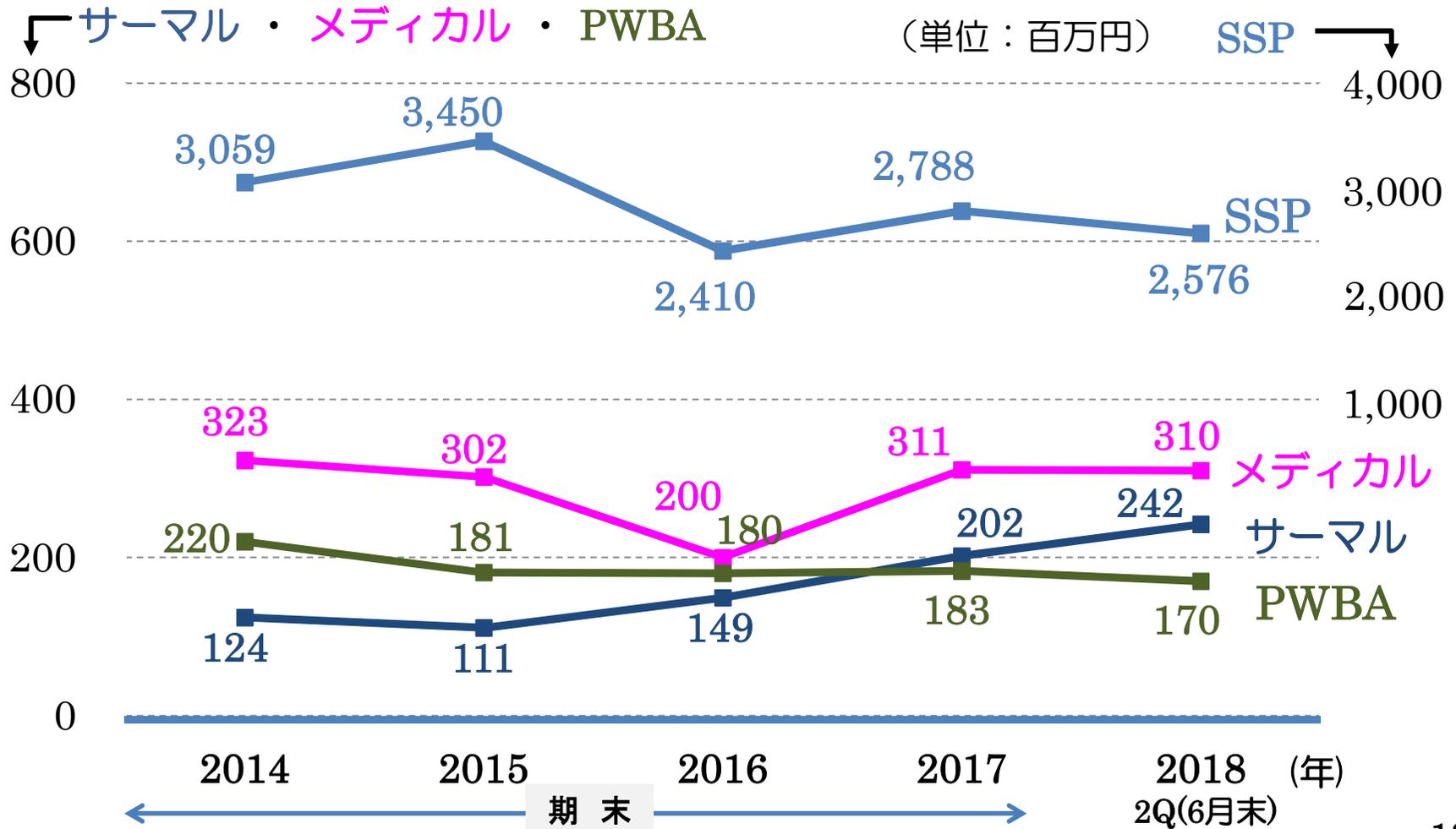
セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

セグメント	売上高		営業利益		
	金額	構成比	金額	利益率	構成比
■SSP (火報・消火システム)	2,470	39.3 %	454	18.4 %	66.3 %
■サーマル (温度制御機器)	654	10.4 %	97	14.8 %	14.2 %
■メディカル (透析装置)	828	13.2 %	11	1.3 %	1.6 %
■PWBA (プリント基板実装)	2,335	37.1 %	121	5.2 %	17.7 %
合計	6,288	100.0 %	685	10.9 %	100.0 %



連結部門別受注残高推移



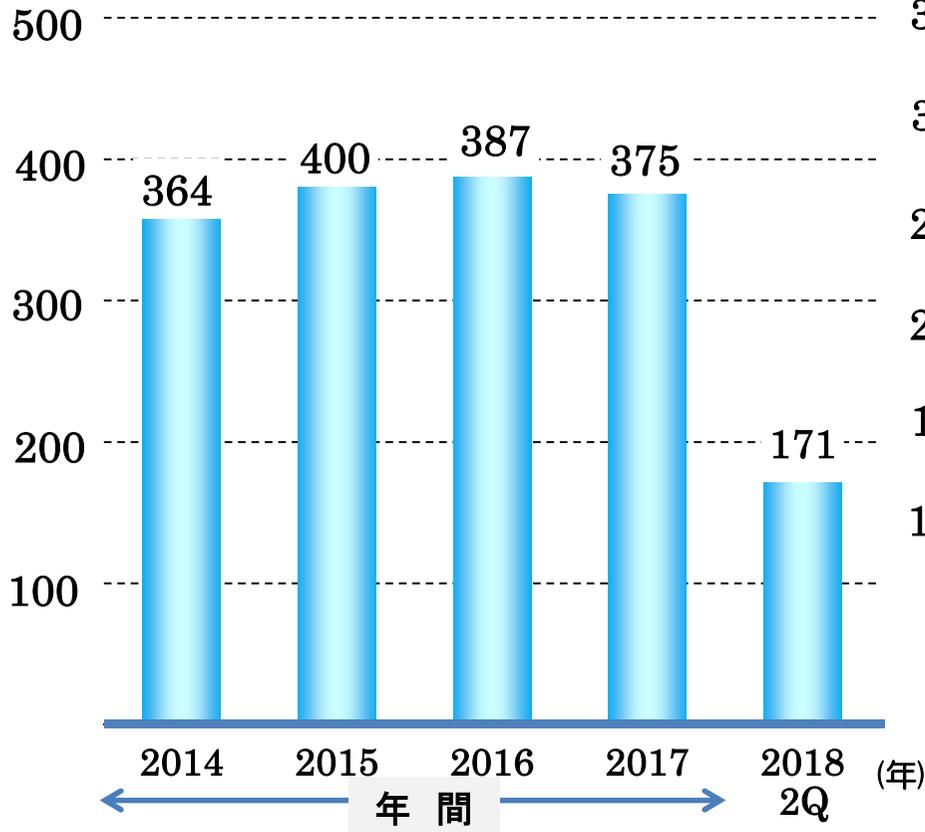
投資・財務概況・経営指標



投資概況

研究開発費

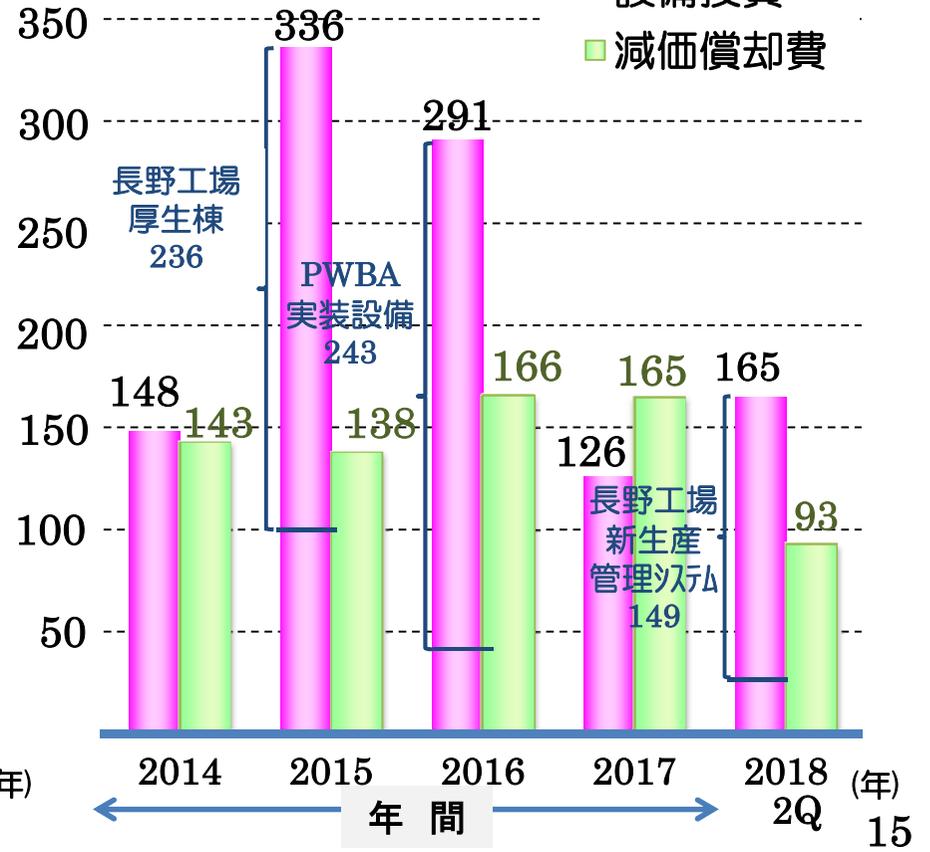
(単位：百万円)



設備投資・減価償却費

(単位：百万円)

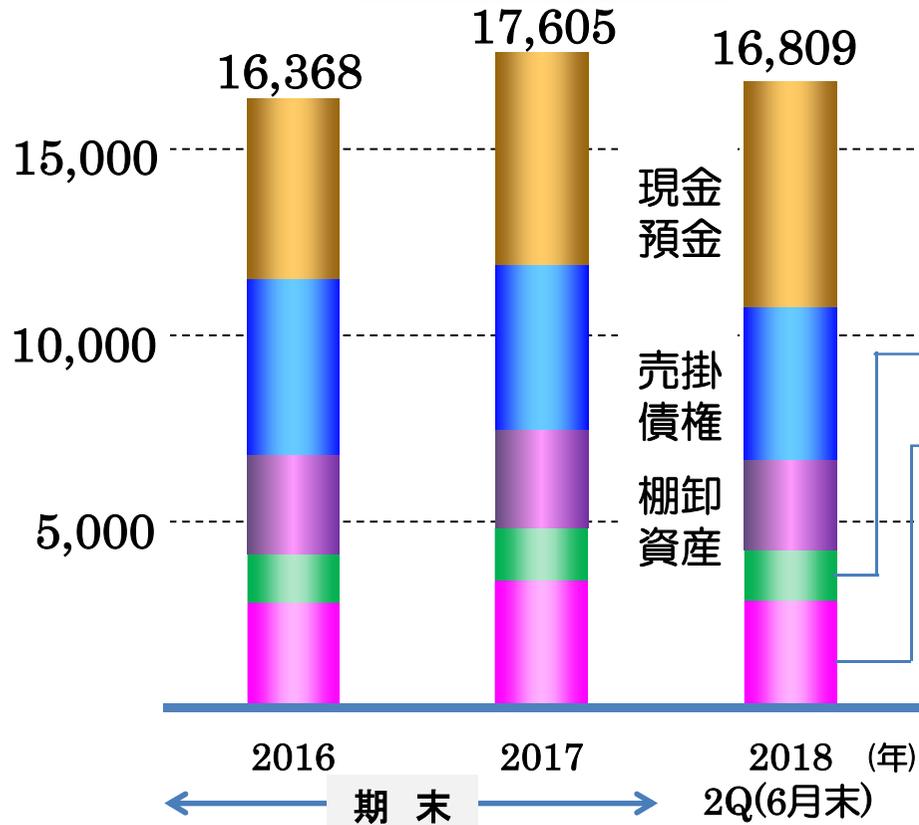
■ 設備投資
■ 減価償却費





連結貸借対照表(資産の部)

資産推移



増減内容

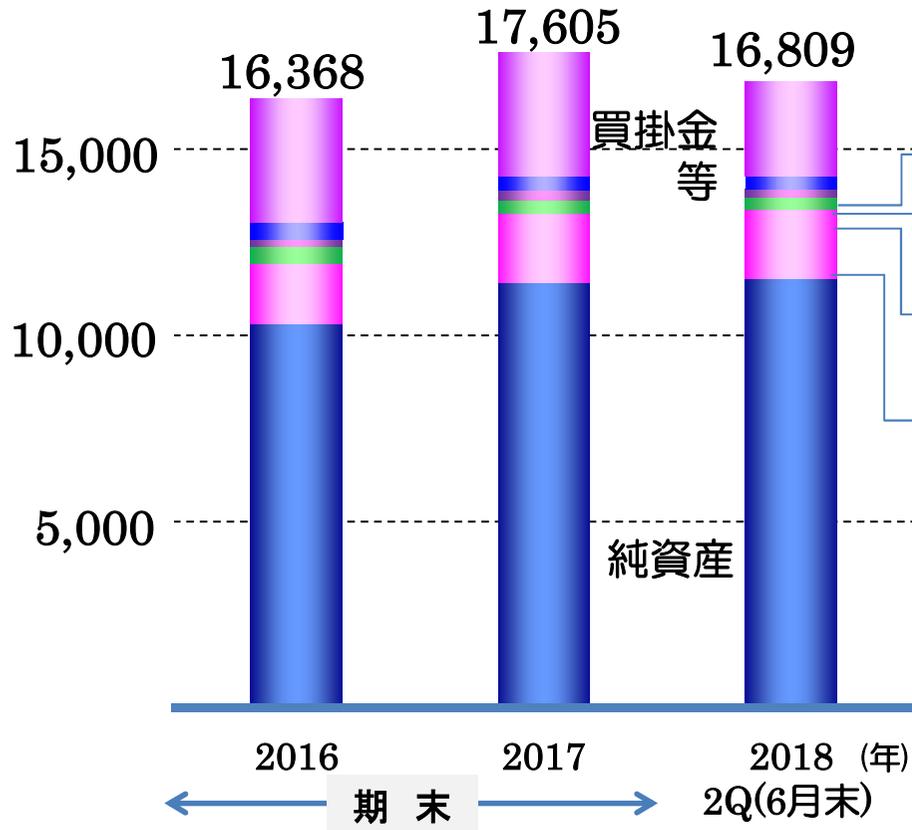
(単位: 百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
現金預金	6,045	5,714	5.8%
売掛債権	4,096	4,423	△7.4%
棚卸資産	2,438	2,638	△7.6%
固定資産	1,337	1,401	△4.6%
投資等	2,828	3,352	△15.6%
その他	65	77	△15.6%
合計	16,809	17,605	△4.5%



連結貸借対照表(負債・純資産の部)

負債・純資産推移



増減内容

(単位: 百万円)

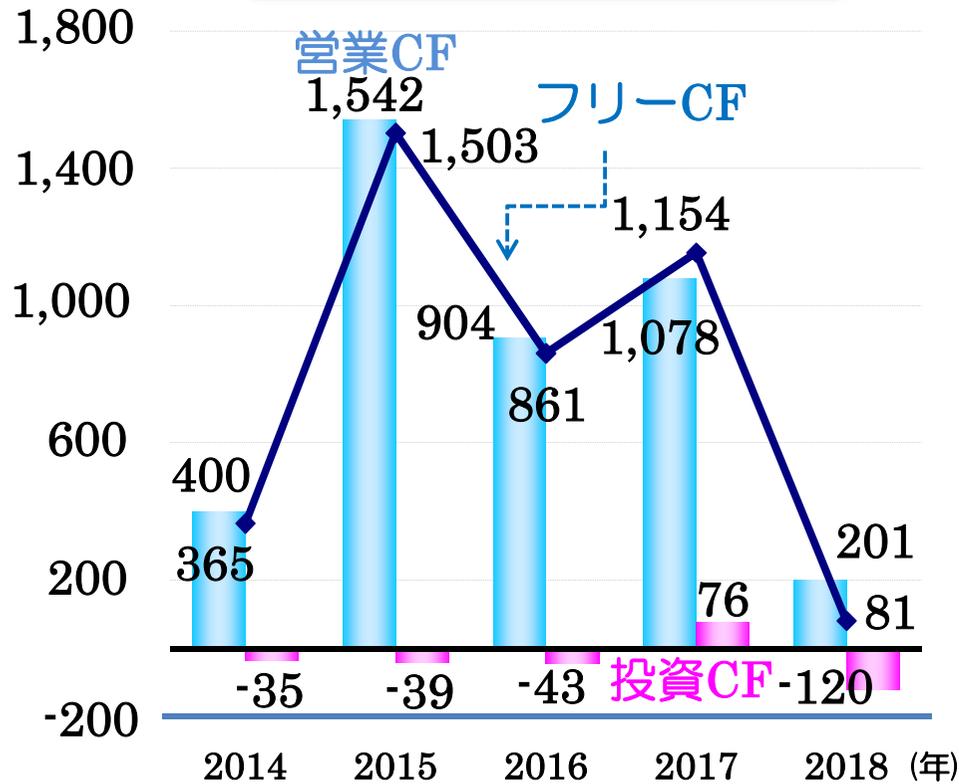
項目	当期	前年度末	増減率
買掛金等	2,533	3,339	△24.1%
社債	352	368	△4.3%
未払法人税等	217	259	△16.2%
退職給付	326	357	△8.7%
その他	1,859	1,856	0.2%
純資産	11,522	11,425	0.8%
合計	16,809	17,605	△4.5%



キャッシュ・フロー計算書

運転資本の増減の影響による営業CFの減少

キャッシュ・フロー推移



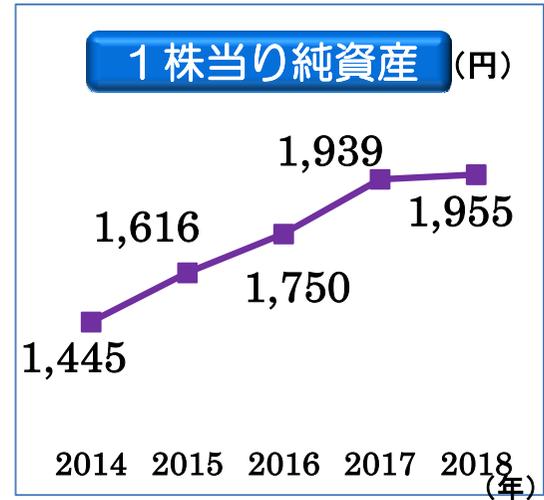
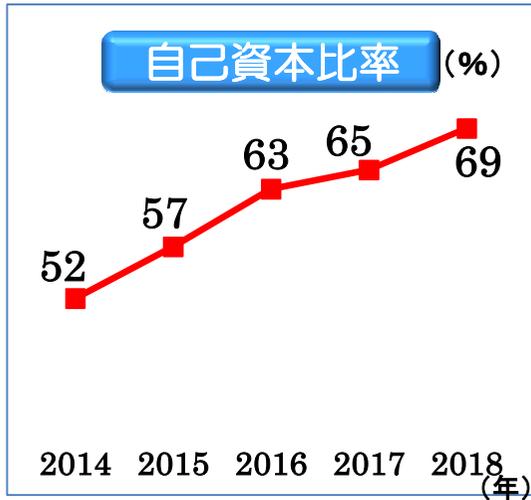
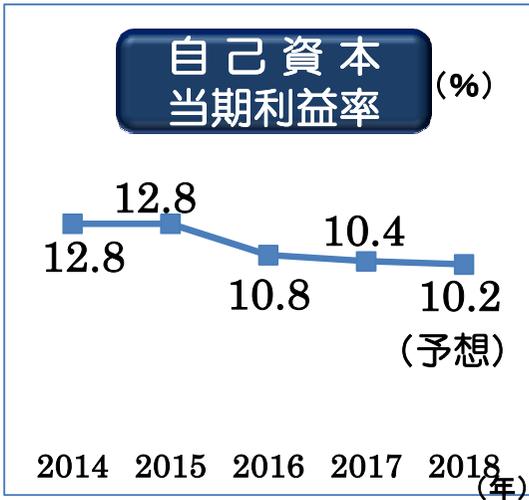
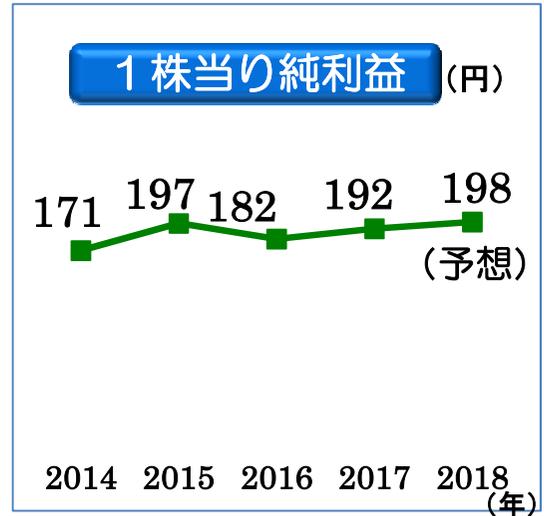
増減内容

(単位: 百万円)

項目	当期	前期	増減率
営業CF	201	1,077	△81.3%
投資CF	△120	76	—
財務CF	△146	△114	28.4%
換算差額	△46	△61	24.2%
合計	△111	979	—
期首残高	5,714	4,851	17.8%
期末残高	5,602	5,829	△3.9%
フリーCF	81	1,154	△93.0%



経営指標



3. 2018年度 通期連結業績見通し



2018年度連結計画サマリー（減収増益）

通期計画変更なし

計画項目

前期比（単位：百万円）

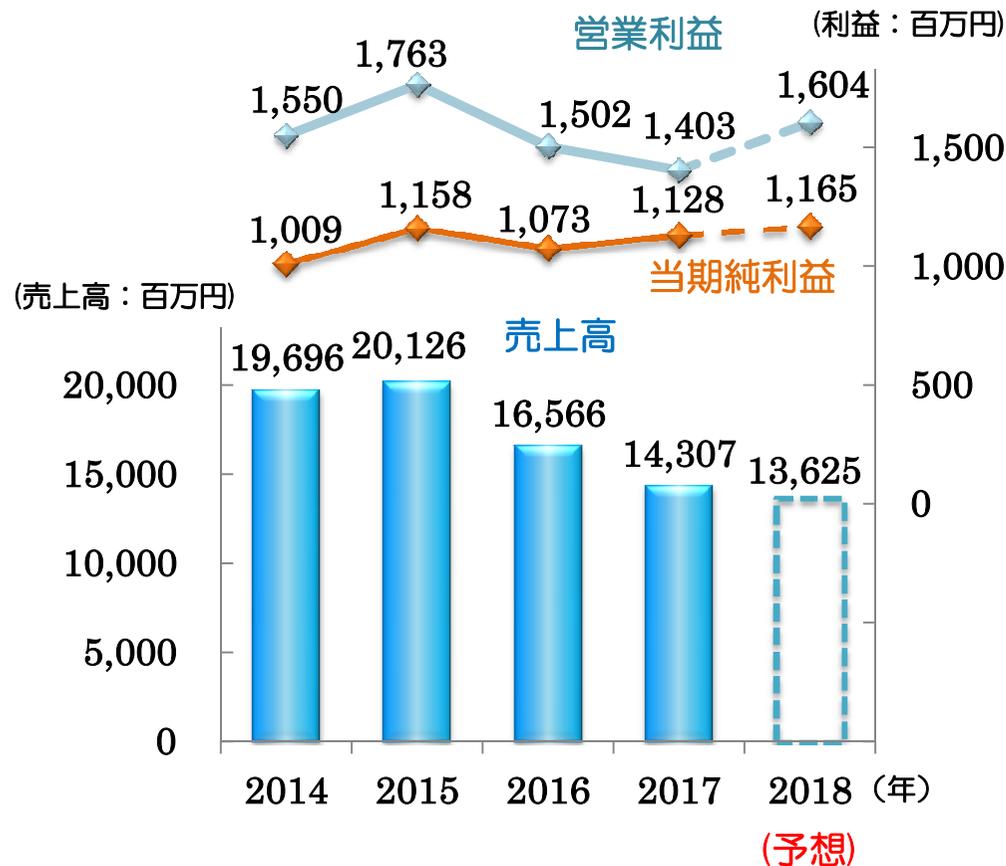
計画項目	2018	2017	増減率
	予想	実績	
■ 売上高	13,625	14,307	△4.8%
■ 売上総利益	3,634	3,440	5.6%
■ 販管費	2,030	2,037	△0.3%
■ 営業利益	1,604	1,403	14.3%
■ 営業外損益	59	73	△19.2%
■ 経常利益	1,663	1,476	12.7%
■ 当期純利益	1,165	1,128	3.3%

※想定為替レート：1USドル=105円



全社見通し

業績の推移（実績・予想）



【減収・増益 予想】

- ・ 売上高 前期比 Δ 4.8%
- ・ 営業利益 前期比 14.3%

引き続きPWBAの落ち込みが大きく売上高は減少するものの、高付加価値製品が多いSSPと利益率の高いサーマルで目標の利益計画達成を目指す

- SSPは、電力等基幹産業向けが減少も産業用検知器の需要は順調に推移
- サーマルは、半導体製造装置の需要好調により熱板・センサーの販売が順調
- ディアルは、透析装置の新興国での需要の高まりから生産出荷台数が増加
- PWBAは、主要取引先の販売不振の影響により基板の出荷が大幅に減少

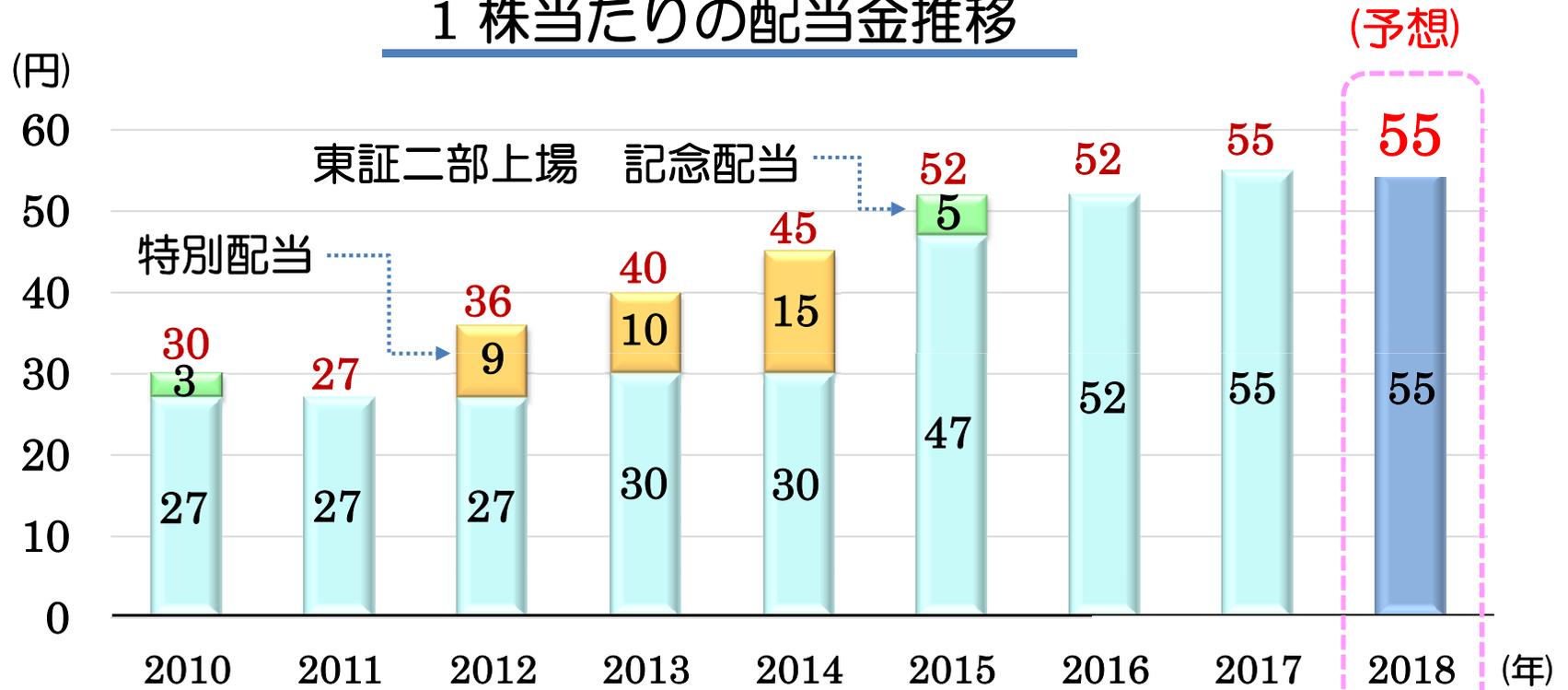
2018年度 配当について

FENWAL



配当金の推移

1株当たりの配当金推移



当期純利益 (百万円)	182	256	779	874	1,009	1,158	1,073	1,128	1,165
配当性向(%)	97.1	62.1	27.2	26.9	26.2	26.4	28.5	28.7	27.8

4. 中期3ヶ年経営計画 進捗



「2018-2020年度」中期経営計画 方針

持続的成長の実現

SSP

- オンリーワン商品の市場浸透
- 原子力発電所向けビジネスの拡充
- 差別化できるガス消火システム開発
- 安定収益が見込めるメンテナンス営業の更なる強化

メディカル

- 主要顧客からの顧客満足度向上による売上アップと収益拡大
- 第一種医療機器製造販売業許可を生かして新製品受託開発案件量と販売実績を積み上げる

研究開発

- オンリーワン商品を生み出す発想力を高める
- 開発技術の向上
- 開発速度の向上と開発納期の遵守

サーマル

- 半導体業界におけるシェア拡大
- オンリーワン商品を開発する

PWBA

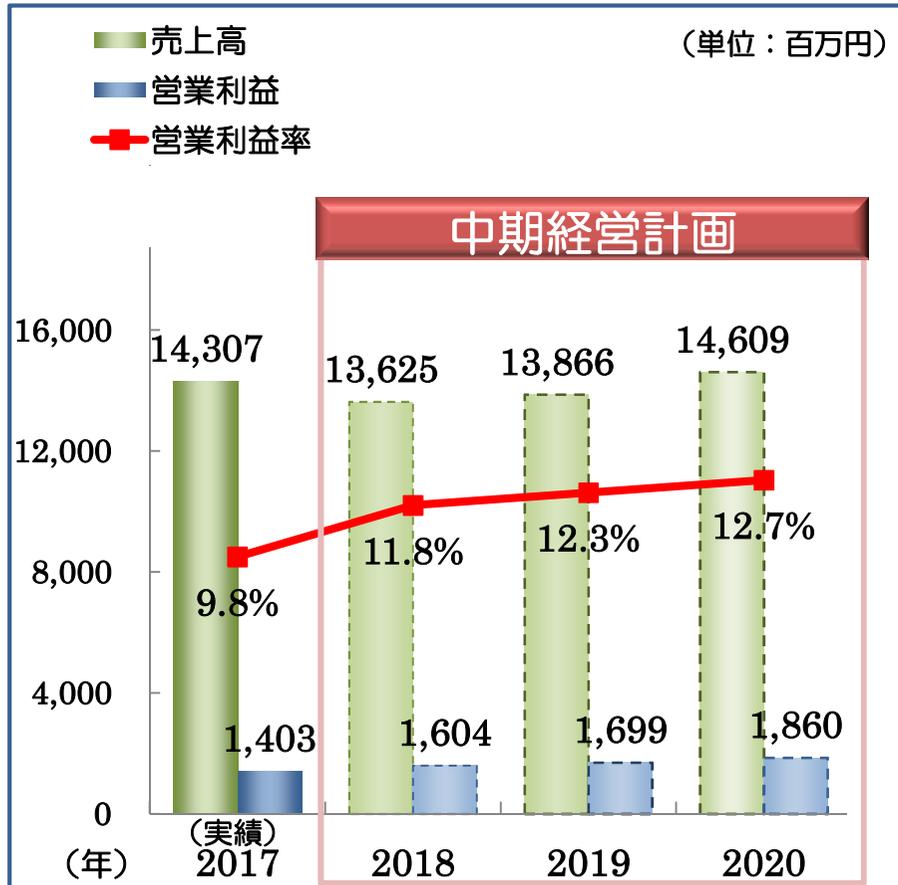
- 売上高急減に対応した生産体制の再構築
- 生産コストの低減により新規顧客からの受注を増やす

工場

- 現在の低生産性状態からの脱却
- 人員体制を見直し作業効率の改善による効率性向上



「2018-2020年度」中期経営計画（全体計画）

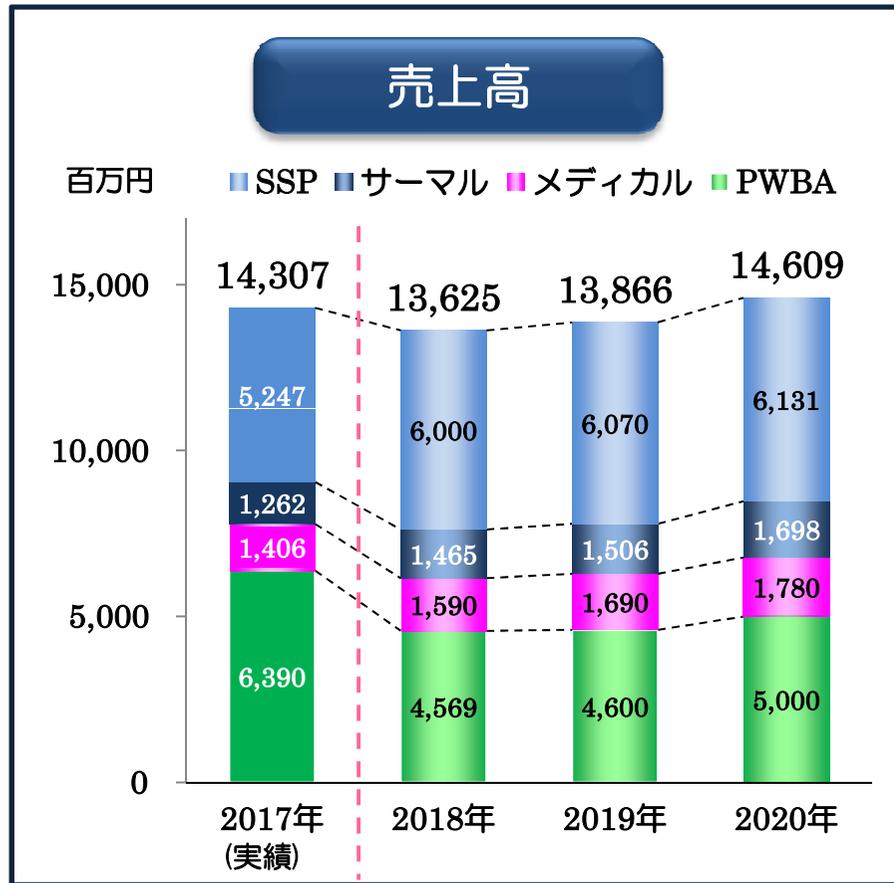


数値目標		
	2017年 (実績)	2020年
売上高	14,307	14,609
営業利益	1,403	1,860
営業利益率	9.8%	12.7%

PWBAの売上減少の影響が大きく、売上高の拡大は見込めないものの、利益面では、SSPの差別化された高付加価値製品やサーマルの半導体市場向け製品など、利益率の高い事業が堅調に推移すると見込んでおり、営業利益率は高まる計画としている。



「2018-2020年度」中期経営計画（全体計画）





新製品の開発状況

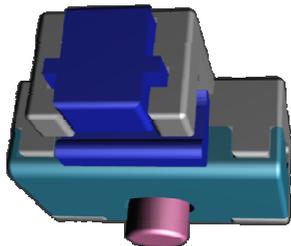
品名	特徴	進捗状況および予定	外観	発売日
船舶向防爆型 煙感知器	船舶にも防爆性能を求められる場所があり、 耐圧防爆型では世界初となる。	塩水噴霧試験等、船独自の 規格に対応中。		2019年 6月予定
防爆型3種 煙感知器	防爆性能を求められる場所でシャッター、 防火扉等の連動用感知器は3種の煙感知器が 必要となる。	ほぼ終了。		2018年 12月予定
Fシリーズ 受託評価取得	Fシリーズは性能、形状等が消防法の範疇に 納まらない為、現在は未検定品です。 Fシリーズ用に基準を検討、評価し、国 のお墨付きをもらう。	試験方法、基準値等、 検定協会と検討中。		2019年 6月予定
抜針センサー	別紙参照願います。	ほぼ終了。9月からある病院 で実際に試験を行なう予定。		2019年 3月予定

品名	コンソーシアム	コンソーシアムの動き	当社の動き	発売日
IoT	FIELD System	アプリケーション開発キットおよび接続用の コンバーター開発キットがリリースされた。 今後、生産性向上、予防保全、遠隔保守、 運用最適化に役立つ人工知能アプリおよび 開発キットが提供される予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・デバイスパートナーとして入会。 ・無線LANへ接続できる試作品を完成。 ・左記開発キットを入手し開発中。 ・FIELD Systemの審査を受け、 FIELD Systemのストアへ出品予定。 	2019年 4月予定
	EDGE CROSS	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年4月に仕様書V1.0、 5月に基本ソフトが発売された。 ・会員の為にEDGECROSS対応品の 販売用マーケットプレイスが開設された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年12月に入会。 ・基本ソフトウェアを購入し、開発計画を 策定中。 ・EDGECROSSの認定を受け、 マーケットプレイスへ出品予定。 	2019年 8月予定

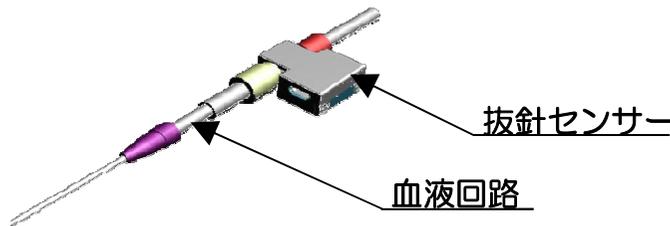


抜針センサー、競合他社との性能比較

	検出原理	誤作動の恐れ		検出のタイミング	操作性	血液回路の離断および出血	消耗品
		汗	ノイズ(雷等)				
新製品	血液回路の抜けを機械的に検出	【無】 汗は検出し ない	【無】 機械的な検 出の為、 ノイズには 強い	血液回路の 抜けを検出 出血する前 に警報を発 する	ワンタッチ 取付	接続用のネ ジ部を固定 するので、 離断を防ぐ ことができ 、また、出 血も防げる	【無】
競合 A社 B社	紙状のセン サーを腕に 張り付け、 出血による 電気抵抗の 変化を検出	【有】 汗と血液と の区別が つかず、検 出してしま う	【有】 電気的な検 出の為、雷 、トランシー バー等で作 動の恐れ有	出血を検出 する	センサーを 腕に張り付 けた後、電 極をクリッ プにて接続	血液回路の 離断を防げ ないため、 出血も検出 できない	【有】 毎回、紙状 のセンサー を使い捨てる



抜針センサー



抜針センサー取付状態

日本の透析患者数は33万人もいます。
人工透析中に於ける医療事故の最多は抜針事故で、
2番目は血液回路の離断です。
抜針、離断により短時間に多量の出血を生じ、生命
を脅かす事故も起きています。
当社の新製品は出血の前段階の抜針を検出する為、
事故の早期発見が可能になり、その上、血液回路の
離断も防ぐことが出来るようになりました。



SSP事業



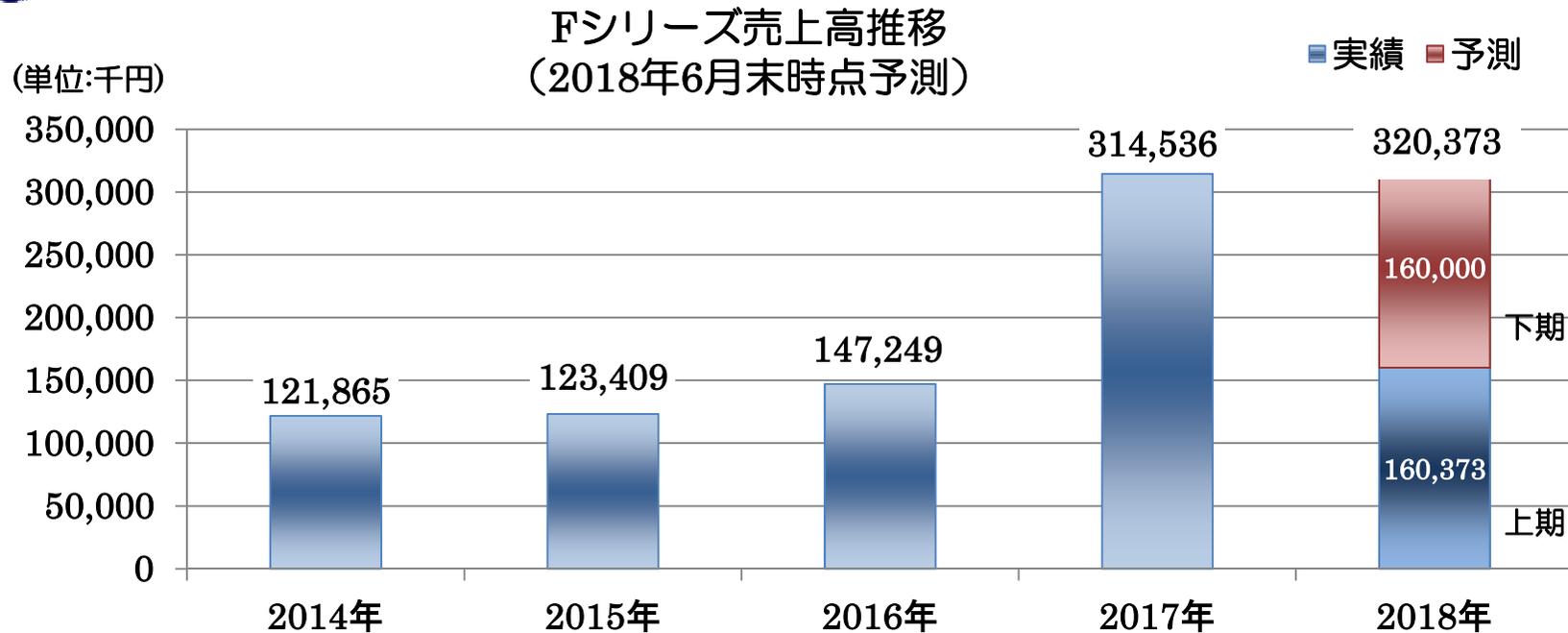
重点施策

産業分野に於ける 特殊防災のリーダーを目指す

- ・ オンリーワン商品の商品ラインアップを更に充実させる
…Fシリーズのラインアップ増
- ・ オンリーワン商品を用い、新たな市場を創り拡販を目指す
…耐圧防爆型煙感知器の市場拡大
- ・ オンリーワン商品の海外展開を目指す
…Fシリーズおよび耐圧防爆型煙感知器
- ・ 再稼働原発に対するガス消火、火報設備の販売拡大…(東電)柏崎刈羽、福島第一、(東北電)女川、(九電)川内、玄海 向けに注力
- ・ 安定収益が見込めるメンテ営業の更なる強化…フィソール設備(株)の吸収合併による経営のスピード化・効率化および営業深耕を推進



Fシリーズ（産業用検知器）の売上実績



【2018年度売上目標】 660,000千円

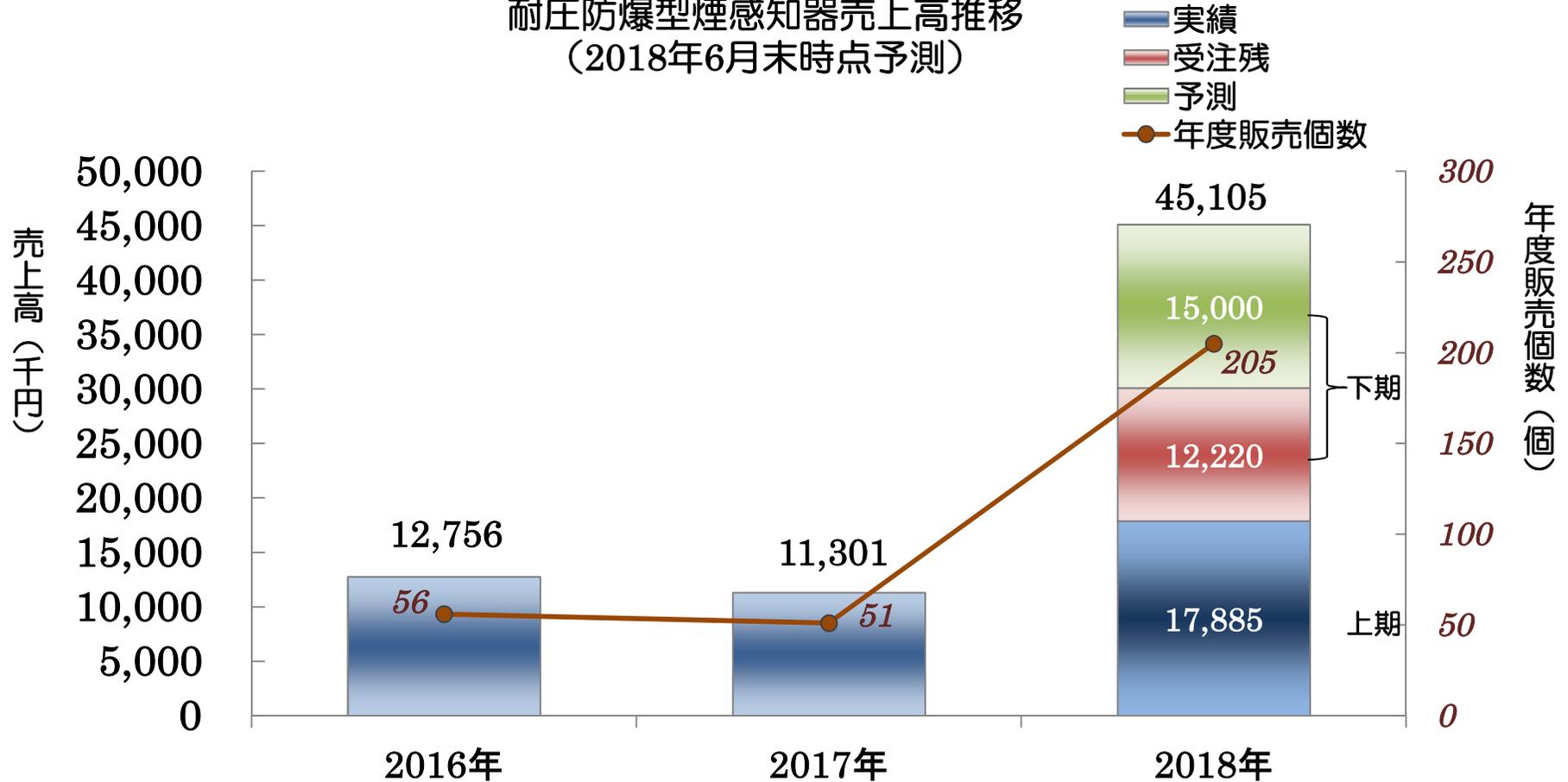
(売上未達要因)

- ① 韓国S社 有機EL不振による設置数減少
- ② 原発案件の延期や見直し（設計変更）
- ③ 海外向け販売が立ち上がらない
- ④ 大手鉄鋼メーカーの製鐵所内電気施設向け設置の進捗が遅れており、競合企業もあり
- ⑤ IoT対応商品(FIELD System ,EDGE CROSS)の立ち上がりの遅れ



耐圧防爆型煙感知器の売上実績

耐圧防爆型煙感知器売上高推移 (2018年6月末時点予測)





サーマル事業



重点施策

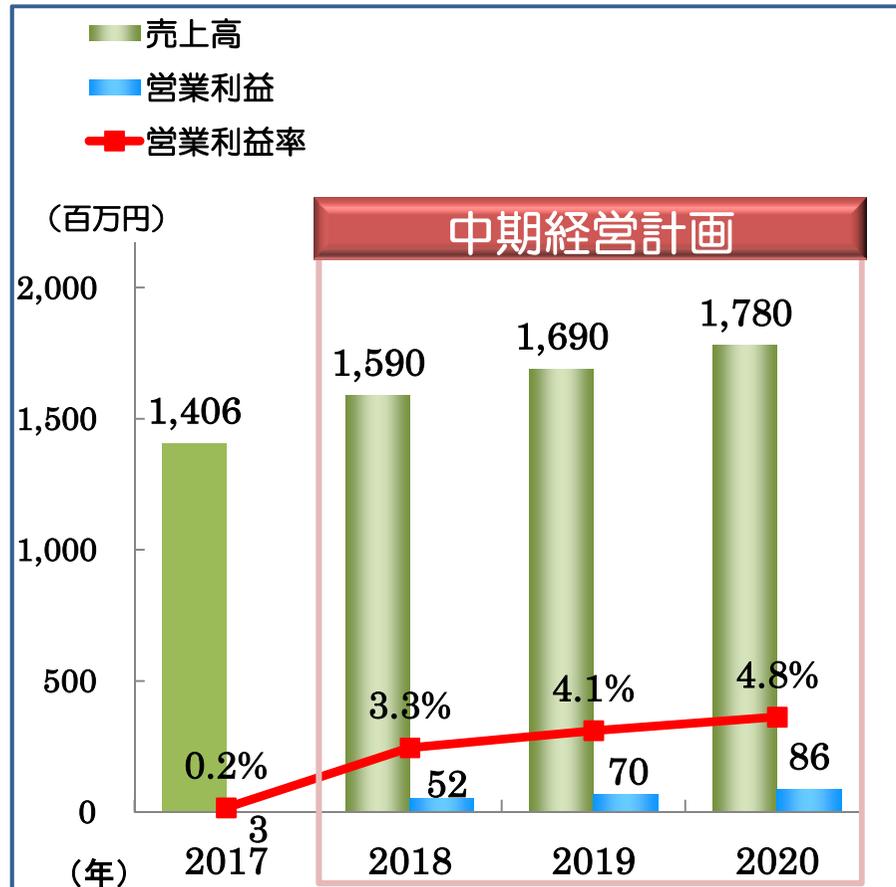
好調な半導体市場に向け シェア拡大を図る

- ・ 熱板の受注増へ対応するため
 - ①工場のオペレーター増強
 - ②加工機・治具への追加投入を検討
- ・ 熱センサー(熱電対)受注拡大に向け
JCSS(計量法トレーサビリティ制度)認定取得予定
- ・ 未開拓のデバイスメーカーへの営業攻勢

エンドユーザー、装置メーカーの
ニーズを踏まえて差別化された
オンリーワンの自社製品を開発する



メディカル事業



重点施策

主要顧客からの顧客満足度を向上させ高採算の透析装置の新規開発、生産を拡大させる

- ・ 海外向け・個人用高機能透析装置の新規開発
- ・ 透析装置の要素部品の販売拡大
…中国市場および国内市場の市場の伸び悩みでやや苦戦

徹底的なコストダウンによる採算性向上を実現

- ・ 透析装置の生産効率改善と原価低減
…調達先の拡大、安価な外注業者の活用 (ハ-叔、ホソ、70-スイッチなど)

独自性のある新規医療機器開発および生産

- ・ 「第一種医療機器製造販売業認可」を生かした新規開拓(開発・生産)を行なう



PWBA事業



重点施策

生産体制の再構築により、生産コストを低減させ、新規開拓を拡大する

- ・ 長野工場での生産効率改善と購入部材費の圧縮等により徹底したコストダウンを図る
- ・ 新規製品へのプリント基板を含む製品一括受注… **Voistrap 新規受注**
- ・ 新規顧客開拓により一社依存型からの脱却
- ・ ノイズ対策、回路設計、ア트워크設計等の技術力やノウハウを活かした差別化を図る



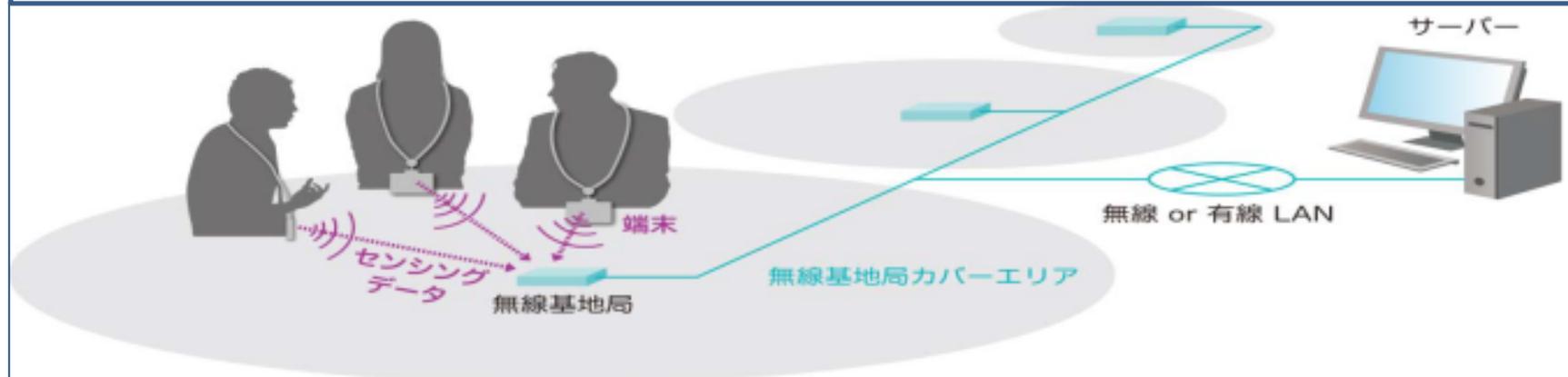
PWBA新規案件

富士ゼロックス社の新規ソリューションビジネス製品の組立業務に参画

コミュニケーション可視化技術 『製品名：Voistrap』

会議の効率化や部門配置の適正化等のソリューションに繋げることを目的に無線で管理されたマイク内蔵型のVoistrapを首に装着し、**発話タイミングだけをセンシングすることで、コミュニケーション「いつ、誰が、誰と」を可視化**できる商品です。

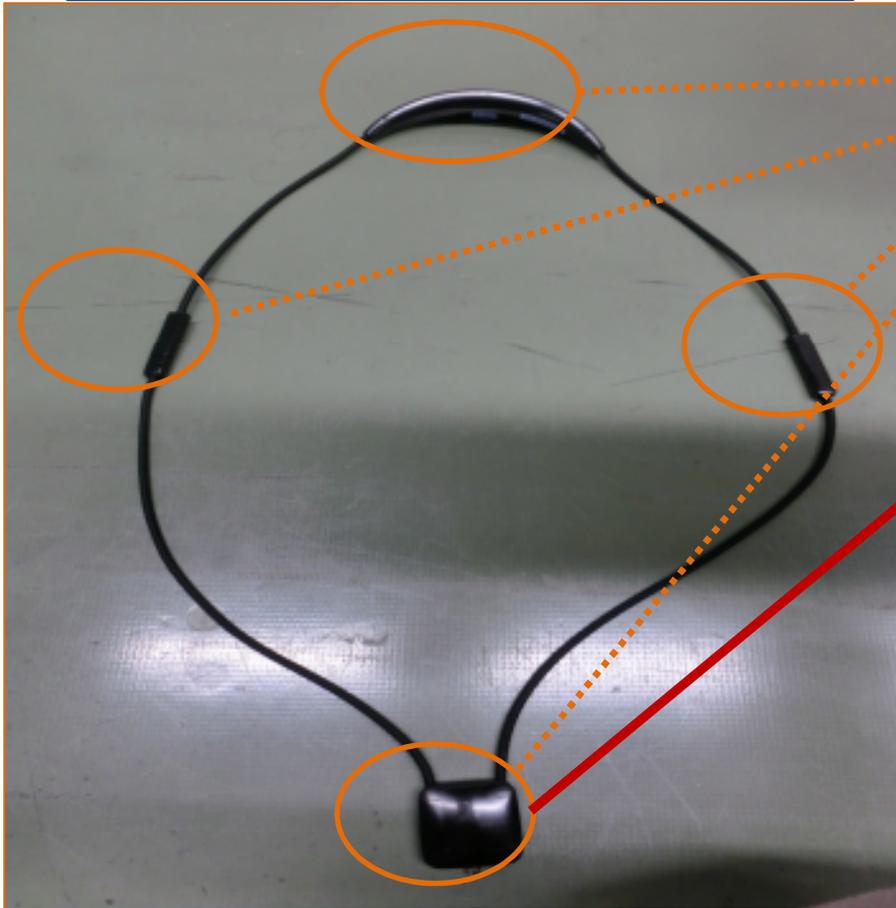
今後、更に「どこで、どのように」の機能を追加することで、コミュニケーション可視レベルを高めていく予定です。





PWBA新規案件

『Voistrap』（製品写真）



この部分4ヶ所にマイクを内蔵

無線で音声タイミングを発信



中継アンテナ装置を経由して
サーバーにデータを格納



中期 経営目標・投資計画・配当政策



投資計画

2019年度の投資計画

研究開発	・ SSP	： IoT関連技術	2.5億円
	・ サーマル	： センシング技術	1.0億円
	・ メディカル	： 医療技術	1.5億円
設備・建物	・ 工場建物	： 老朽化による建替・補修	3.0億円
	・ 研究施設	： 老朽化による建替・補修	0.5億円
	・ 生産設備	： 新規入替・補修	1.5億円
	・ 社内インフラ	： ネットワーク構築、セキュリティ強化	0.5億円
人材育成	・ 新卒採用	： 定期採用(若干名/年)実施	3百万円
	・ 中途採用	： 人員構成の正常化(30代)	15百万円
	・ 教育訓練	： 幹部育成・階層研修	10百万円



中期 経営目標・配当政策

経営目標

- ・利益拡大に全力を傾注し、収益力の強化を図り、ROEの向上に努める

ROE目標値 12%以上
(2017年度 10.4%)

配当政策

- ・株主配当については、安定的な配当の継続を基本としつつ、収益状況を勘案して配当を行う

連結配当性向目標値 35%
(2017年度 28.7%)

※ 目標値は 2019 年度

■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。